

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	食機能実行分子とその機能的相互作用の統合的理解
研究代表者	立花 宏文 (九州大学・大学院農学研究院・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、生体調節作用を有する食品成分やその代謝物を「食機能実行分子」として位置付け、機能性 RNA の動態、メタボライト作用、エピジェネティクス制御や難消化性ポリフェノールセンサーの同定などを通して食機能実行因子の本体と調節メカニズムを総合的に理解することを目指すものである。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>本研究により、難消化性成分や微量にしか含まれない食品成分の機能性発現メカニズムの理解につながり、食品の生体調節機能性研究に大きく貢献することが期待できる。また、食品成分間の機能的な相互作用が解明されれば、理想的な食品摂取に関する科学的エビデンスに基づく食品開発に道を拓くことも可能となる。</p>